

答え合わせ・解説

問1	答え 1 兵庫県	兵庫県は、神戸市という大都市を抱えるため、近畿地方内では大阪府に次ぐ経済・人口規模を誇ります。その一方で、県域が本州を南北に貫き、瀬戸内海から日本海まで広がっているため、都市型の商業施設だけでなく、北部の山岳地帯におけるスキー場など、多様な自然環境を活かしたレジャー資源が統計上でも顕著に表れています。
問2	答え 1 奈良県や兵庫県は、大阪府へ労働力や学生を送り出す「ベッドタウン」としての役割を果たしている。	昼間人口比率が100%を下回るということは、その地域に住んでいる人が昼間は他の地域へ流出していることを意味します。奈良県（89.8%）や兵庫県（95.6%）は、鉄道を利用して大阪府内の企業や学校へ通う人々の居住地となっており、このような地域は「ベッドタウン」と呼ばれます。大阪府が104.5%という高い数値を示すのは、これら周辺の「ベッドタウン」から鉄道網を通じて多くの通勤・通学者を受け入れているためです。
問3	答え 1 明石海峡大橋と大鳴門橋を介して、本州と四国を陸路で直結し、人や物の移動を効率化させている。	兵庫県を通る「神戸・鳴門ルート」は、本州と淡路島を結ぶ明石海峡大橋と、淡路島と徳島県を結ぶ大鳴門橋によって構成されています。このルートの完成により、従来は船舶に頼っていた近畿圏と四国東部の交通が高速道路で直結されました。これにより、農産物の輸送時間の短縮や観光客の増加など、地域経済の活性化に大きく貢献しています。他の選択肢は、瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）や西瀬戸自動車道（しまなみ海道）の説明です。
問4	答え 1 六甲山地などの山々と海に挟まれた平野部に位置し、古くから港湾が整備されたことで原材料の輸入や製品の輸送に有利であった。	阪神工業地帯は、大阪湾に面した臨海部に大規模な工場が立ち並び、海上輸送を軸に発展してきました。戦前は「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほど繊維工業が盛んでしたが、戦後は鉄鋼や石油化学などの重化学工業へと転換し、近年ではパネルや電池などの環境関連産業の集積も進んでいます。
問5	答え 4 平安京	平安京は桓武天皇によって現在の京都市に造営された都です。この都を建設する際、東西・南北に走る大路によって街を四角く区切る「条坊制」という仕組みが導入されました。この時の計画的な街づくりが、現代の京都市における規則正しい道路網の基礎となっています。
問6	答え 1 建物の高さに一定の制限を設ける	奈良市では、歴史的な街並みや建造物の眺望を確保するため、景観保護政策として建物の高さ制限を導入しています。これにより、興福寺の五重塔といった伝統的な建築物が周辺の近代的な建物に遮られることなく、地域の象徴としてどこからでも見えるように配慮されています。
問7	答え 1 神戸市	兵庫県は本州を南北にまたぐように位置しており、日本海と瀬戸内海の両方に海岸線を持っています。この県に位置する神戸市は、国際貿易港として発展してきただけでなく、西端の西神地域などを東経135度の日本標準時子午線が通過していることでも知られています。なお、日本標準時子午線は同じ兵庫県の明石市を通ることで有名ですが、神戸市内も通過点の一つです。
問8	答え 1 県中央に位置する琵琶湖が極めて広大であり、固有種を含む豊富な水産資源を対象とした漁業が内陸で完結しているため。	滋賀県の漁業は、県面積の約6分の1を占める琵琶湖を中心に行われています。琵琶湖にはニゴロブナやビワマスといった多くの固有種が生息しており、これらを対象とした漁法が古くから発達してきました。海を持たない地理的制約がありながら、広大な湖という特殊な環境があるために、内陸でありながら漁業が主要な産業の一つとして統計に現れるのが滋賀県の特徴です。